

誰もが行きたくなる学校づくり研修

青少年相談センターが取り組むポジティブな支援を広げる活動

本市の不登校児童生徒数は、令和元年度に1127人、令和2年度は1240人と増加傾向にあることから、市内の小中学校において、よりよい支援体制を構築するため、2月24日に市内教職員等が好事例を共有するパネルディスカッション形式の研修を行いますのでお知らせします。

パネリストからの意見とフロアからの質疑を交え、よりよい支援体制の創造に迫り、不登校改善に向けた取組を進めていきたいと考えています。

1. 日時 令和4年2月24日（木）15:00～17:00
2. 場所 青少年相談センター中央相談室（※オンラインでも実施）
（相模原市中央区中央3-13-13）
3. パネリスト 市内で実際に活躍する支援教育の窓口となる先生や教育センターの指導主事
4. 参加対象 参加を希望する市内教職員



青少年相談センターでは「明日から使える支援」を協同で創造、「今ある課題」を解決！というコンセプトのもとに今年度はこれまで5回の研修を開催しています。

【問い合わせ先】
青少年相談センター
嶋田 雄介
042-769-8285

研修開催の背景
～相模原市の不登校に関する現状とその支援～

本市の不登校児童生徒数は、令和元年度に 1127 人、令和 2 年度は 113 人増の 1240 人と増加傾向にあり、予断を許さない状況にあります。

課題の 1 つとして、よりよい支援体制を構築していくことがあります。支援体制の柱となるコーディネーターは 2007 年からの導入、小学校の児童支援専任教諭は導入して 5 年目であり、その役割の明確化や人材の育成という点では発展途上にあります。市内の半数以上の小学校で、今年度初めてその役割を担う教員が配置されている状況もあり、不安や疑問を抱きながらコーディネートしている教員の声も多く届いています。

その一方で、問題行動等調査によると、相模原市の登校復帰傾向率は 37.5%で、全国平均の 28%を上回っています。また、市内では、組織的な取組を継続的に行うことにより、昨年度に続き、不登校が 0 になっている学校もあります。そのような相模原市の支援教育のポジティブな側面に焦点をあて、その一つひとつの支援を市内の教員で共有していくことは、よりよい支援体制の構築につながっていくと考えられます。